

A Message from Forty Years Ago
(40 年前からのメッセージ)

P.95

ここに、1 枚の魚の写真がある。

それらが何の魚か、あなたは分かるだろうか？

それらは日本のキリフィッシュ、もしくはメダカである。

少し前には、私たちはそれらを田舎の田んぼ沿いにある小川の中で見る事が出来た。

しかし、そのほとんどが今ではなくなってしまった。

【POINT】 be gone = 「いなくなってしまう」

なぜなのだろうか？

理由の 1 つは、私たちが畑で使用した農薬が、小川の氷をメダカが生息するのに適さないものにしてしまったということである。

【文章構造:SVOC (C)=形容詞】

Farm insecticides ([which] we used on the fields) made the water of the streams

(S)

(V)

(O)

unsuitable for killifish to live in.

(C=形容詞)

「私たちが畑で使用した農薬が、小川の水をメダカが生息するのに適さないものにしてしまった」

《S make OC (C=形容詞)》=『S が O を C にする』

時が経つにつれ、メダカは完全に絶滅してしまうかもしれない。

メダカが生息することの出来ない環境は、人間にとっても危険である。

私たちは、今生態系の危機の時代にいるのである。

およそ 40 年前に、この危機について私たちに教えてくれた 1 人の女性がいた。

彼女は、「沈黙の春」の著者であるレイチェル・カーソンだった。

【WORDS】

killifish	[名詞]	メダカ
stream	[名詞]	小川
countryside	[名詞]	田舎
gone (go)	[動詞]	行く、去る